

- 自由・改進黨の連合(五五) 各選挙区の経過と結果(五五)
- 三 高座郡の「血戦」.....五五五
 - 神奈川自由党の主導権(五五五) 両党提携の終焉(五五六) 県会の解散と選挙(五五七) 武相支部と同志会(五五九)
 - 高座郡の「血戦」(五六二)
- 第五節 三多摩の東京府移管
 - 一 三多摩郡移管の歴史的経緯.....五六四
 - 多摩三郡移管のたてまえ(五六四) 三多摩郡移管の端緒(五六六) 北多摩正義派の移管運動(五六八)
 - 二 内海神奈川県知事内申の役割.....五六九
 - 東京府知事および警視総監の上申(五六七) 内海知事の内申(五六七)
 - 三 賛成(反対)両派の動静.....五七一
 - 自由改進黨の動静(五七〇) 賛成派の運動(五七二) 反対派の運動(五七四) 県会議員の動静(五七六)
 - 四 法案審議の経過.....五七七
 - 山田泰造議員の活躍(五七七) 投渡木取私事件(五七八) 法案の成立(五八〇)
 - 五 三郡移管とその後.....五八二
 - 三郡移管への抗議(五八二) 県会の三多摩復旧建議(五八三) 富田府知事への抗議(五八三) 府会議員選挙と高座郡
 - 県会議員選挙(五八六) 神奈川県・東京府の境域確定(五八七)
- 第四章 明治前期の涉外と文化
 - 第一節 横須賀軍港の形成

一	横須賀鎮守府の設置	五九八
	横須賀と海軍(五九六)	提督府(五九三)	横須賀鎮守府(五九四)
二	横須賀造船所の実績	五九九
	海軍省主船寮の雇いフランス人批判(五九七)	横須賀造船所建艦第一号(六〇〇)	造船所雇いフランス人の解雇(六〇一)
	鋼鉄艦建造に転換(六〇四)	外国製軍艦購入と技術導入(六〇六)	
第二節	県行政と涉外問題	六〇八
一	外国人居留地の造成	六〇八
	横浜在留外国人の増加(六〇七)	外国との二つの約定(六〇九)	新居留地・公園造成の長期化(六一三)
	明治十五年外国人の県行政非難と県の反論(六一四)	日本人名儀の土地家屋所有(六一五)	
	居留地の廃止と残された問題(六一五)		
二	入港外国船にかかわる著名事件	六一七
	マリアールルス号事件(六一七)	ヘスベリア号事件(六一七)	トルコ軍艦エルトグロール号の悲劇(六一〇)
	石油タンク設置問題(六一三)		
第三節	キリスト教の展開	六一九
一	プロテスタント教会各派の伝道	六一九
	日本基督公会派(六一二)	横浜長老教会指(六一〇)	美以教会(六一三)
	日本組合基督教会(六一五)	美普教会派(六一九)	基督同信会横浜集会所(六一四)
	バプテスト派(六一七)		
二	カトリックとギリシヤ正教	六四一

聖ミカエル教会(六四二) ハリストス降誕教会(六四三)

第四節 学校教育の拡充

一 初等教育の展開……………六四四

教育令下の小学校(六四四) 小学校の教科内容(六四六) 徳育の振興(六四七) 小学校の増設(六四八)

二 師範教育と教員団体の興起……………六五一

師範学校の創設(六五二) 師範学校の鎌倉移転(六五三) 教育会の結成(六五四)

三 中等教育と私立各種学校の消長……………六五七

公立中学校の改廃(六五七) Y校の創立と発展(六五八) キリスト教系女学校(六六〇) 私立の諸学校(六六一)

第三編 明治後期

第一章 日清戦争と神奈川県

第一節 県民と戦後経営の問題

一 開戦と県民の状態……………六六九

県民と戦争(六六六) もう一つの戦争観(六七二)

二 都市と農村の変化……………六七四

都市と農村の産業の状態(六七四) 都市への人口集中(六七五) 都市生活の変化(六七七) 新しい生活形態の普及(六七八)

三 都市社会問題……………六八一

労働者の街(六八一) 生活と衛生(六八三) 生活と災害(六八四) 慈善事業のスタート(六八六) さまざまな民衆運動(六八七)

四	地主派と商人派……………	六八
横浜の三大紛争(六八)	島田三郎対加藤高明・奥田義人の大政争(六九)	
第二節	労働問題の発生……………	六四
一	「職人」・「職工」の世界……………	
新しく登場した労働者たち(六九)	先駆的な労働運動の展開(六九)	
二	労働組合の誕生……………	七〇
鉄工組合の結成(七〇)	職工義友会と京浜地区(七一)	
労働組合期成会の結成(七三)	労働争議の続発(七五)	
階級的運動の展開(七〇)	試練に直面する労働組合(七〇)	
三	労働者と工場法……………	七九
県下の産業労働者(七〇)	工場法案問題(七一)	
四	同盟罷工……………	七三
労働争議の展開(七三)		
第三節	都市問題の展開……………	七八
一	都市問題の深化……………	
都市民衆の生活難(七二)	都市づくりの動き(七三)	
都市研究(七三)		
第四節	デモクラシーへの道……………	七三
一	普通選挙権運動……………	
普通選挙同盟会(七三)	普選同盟会横浜支部(七五)	

一	『平民新聞』のころ	七三
二	非戦運動(七七) 横浜平民結社(七九)	七三
三	明治末期の社会運動	七三
	普通選挙全国同志会(七三) 社会主義者の動き(七六) 労働運動の苦難(七八) 工場法案の成立(八二)	
第二章	日露戦争・戦後の県政と県民	
第一節	日露戦争下の体制	
一	戦争と県民の動静	七四
	県民の一つの戦争観(七四) 新聞と戦況(七五) 戦争を支える動き(七五) 「戦時」づくりのネットワーク(七五)	
二	戦時行政の展開	七五
	町村での「軍国事務」の実情(七五) 戦時体制の足固め(七五) 戦費調達心がまえ(七五)	
	軍事資金確保を目指して(七五)	
三	戦争終結をめぐる動き	七六
	歓喜と憂うつが織りなす風景(七六) 戦争末期の緊迫ムード(七六) 講和と非講和への空気(七六)	
	戦後経営への方向づけ(七六)	
第二節	地方改良計画とその運動	
一	地方改良会の結成事情	七六
	戦後づくりへの摸索(七六) 落ち込む民力(七六) 自力更生への指針(七六) 地方改良の組織づくり(七六)	
	始動する地方改良会支部(七七)	

二 地方改良運動の実施……………七九

町村での取り組み方(七五) 改良の推進力(七六) 組織をつうじての改良(七三) 模範村づくりへの努力(七五)

三 模範村と地方改良のゆくえ……………七七

南足柄村と共和村(七七) その後の地方改良会(七〇)

第三節 護憲・廃税運動と政治情勢

一 横浜を舞台とする護憲の流れ……………七三

政友会派の護憲への狼煙(七五) 政友会系護憲集会の一断面(七四) 刷新派の「政党競合」論(七六)

護憲をめぐる刷新派と政友派の対立(七七)

二 「立憲主義」と県民の関心……………八〇

『横浜貿易新報』とその周辺(八〇) 「護憲」をめぐる社会風潮(八三) 政党政派間の対抗地図(八四)

地域から「憲政の常道」を(八六)

三 都市商業工業者と廃税運動……………八六

廃税問題の前提(八六) 廃税運動への取り組み(八二) 廃税運動の展開と帰結(八三)

第三章 明治期の社会と文化

第一節 交通通信網の拡充

一 幹線鉄道の開通……………八六

横浜から国府津まで(八六) 東海道線の全通(八七) 横須賀線の開通(八四) 横浜駅の変遷(八五)

中央線の開通(八七)

二 私設鉄道の開業……………	八二九
京浜電気鉄道(二七)	
小田原電気鉄道(三三)	
豆相人車鉄道(四)	
江之島電気鉄道(六)	
湘南馬車鉄道と横浜鉄道(三)	
三 電話交換の開始……………	八四一
横浜に最初の電話(四)	
電話交換網の拡大(四)	
第二節 教育の普及……………	
一 初等教育と戦争……………	八四四
日清戦争と小学校教育(四)	
指導行政機関の設置(五)	
日露戦争と教育(四七)	
教化政策の浸透(四)	
二 初等教育の普及と教育費……………	八五〇
就学率の向上対策(五)	
小学校の規模拡大(五)	
教育費負担の増大(五)	
三 中学校と高等女学校……………	八五六
県立第一中学校の設立(五)	
県立中学校の増設(六)	
公立高等女学校の設立(六)	
私立女学校の発達(六)	
四 実業教育の進展……………	八六三
農業学校の開設(六)	
工業学校の創設(六)	
実業補習学校(六)	
第三節 社会生活と女性……………	
一 文明開化と女権へのめざめ……………	八六七
女子教育・教化(六七)	
男女同権の主張(六)	
伝習工女の派遣(七)	
愛甲婦女協会の叫び(七)	
「女権拡張の方法如何」(七)	

二 社会の中の女性……………八七四

自覚的女性の生誕(六四) 女子の就学傾向(六五) 女子労働者の状態(六七) 神奈川の「女工哀史」(六七)

娼妓と廢娼問題(六三) 自由廢業運動(六三)

三 女性の社会活動……………八八四

日清戦争と婦人団体(六四) 愛国婦人会神奈川県支部(六五) 横浜奨兵義会婦人部の活躍(六七)

「軍国の女」家庭からの解放(六六) 自我愛のほとばしり(六六)

第四節 明治の文化

一 明治後期の新聞……………八九〇

『横浜貿易新聞』(六六) 新聞合同と『貿易新報』(六六) 『横浜貿易新報』(六五)

二 湘南地方の開発……………八九七

最初の海水浴場(六七) 別荘と御用邸(六八) 南湖院(六〇) 行楽地と保養地(六〇)

三 明治の文人と作品……………九〇四

実録と大衆小説(六八) 北村透谷と小田原(六八) 県下の文人群像(六七) 明治の歌こえ(六八)

執筆分担一覧

年表

付表

度量衡換算表

現行市町村別旧村一覧

年号一覧表

あとがき

口絵

明治元年五月の箱根戦争（春日俊雄氏蔵）

明治初期の横浜本町付近のにぎわい（神奈川県立文化資料館蔵）

横須賀製鉄所の外人官舎（石黒敬章氏蔵）

一八七六（明治九年）当時の県域図（国立公文書館蔵）

東久世通禧日記（東久世家蔵）

横浜裁判所総督東久世通禧（福井市立郷土歴史博物館蔵）

県会開設当時の議員と県官（『神奈川県会史』から）

郷学校の教科規則（高橋啓氏蔵）

箱根の風景 小林清親画（神奈川県立博物館蔵）

地租改正時の真土村地引絵図（平川良一氏蔵）

目次

地積測量器具（小林英男氏蔵）

相模国大住郡南金目村絵図（上野敏子氏蔵）

子の徴兵に子指を切って励ます図（古江亮仁氏蔵）

明治中期の横浜ガス局（神奈川県立博物館蔵）

露木事件関係者の供養塔（大磯町 西長院境内）

自由民権家の集会に使われた岡持（難波精一氏蔵）

弘法山山頂からの眺望

自由党報第七報（江村栄一氏提供）

自由党報告書（小島幸康氏蔵）

日本帝国憲法発布を祝う仮装スナップ（横濱）（石川徳門氏蔵）

辞令（安藤進・福井よし子氏蔵）

日露戦争の凱旋を祝うはりがみ（大谷喜作氏蔵）

明治末の横浜市街（手塚弥太郎氏蔵）

愛甲郡依知村における耕地整理の情景（『神奈川県写真真帳』から）

明治末から大正十二年までの県庁舎（『神奈川県写真真帳』から）

七里ヶ浜の海草取りの風景（県史編集室蔵）

養蚕風景（古木義生氏蔵）

たばこ生産の様子（日本専売公社中央研究所蔵）

海水浴客でにぎわう大磯海岸（大磯町役場蔵）

装丁

原

弘

（裏表紙・遊び紙のマークは県章）

はじめに

通史編の近代・現代は四巻からなり、(1)と(2)を政治・行政編、(3)と(4)を産業・経済編に大別した。なお、政治・行政編は広く社会及び文化関係もあわせて記述した。

政治・行政編の(1)は明治期から大正初頭まで、それ以降を(2)とした。政治・行政編(1)の本巻は、明治元年の神奈川県の成立から筆をおこし、これを総説と三編構成とした。

総説は「明治時代の地方政治と社会風土」として、激動する明治期の神奈川県を日本の近代史の中で総体的にとらえ、以下の各編の理解を助けるように記述した。

以下の各編は、政治行政の展開と県民の動向を主軸とし、これに社会・教育・文化等の状況を配して総合的に本県発展の跡を明らかにすることにつとめた。

第一編は、「明治維新と神奈川県」として、若干幕末にさかのぼって前巻近世(2)の最後の「開港」に接続せしめ、明治維新时期における神奈川県の特別な政治的、外交的な地位と、それに伴った横浜の外来文化にもふれて、この期の特色の究明に力点をおいた。また小田原藩、荻野山中藩、六浦藩の版籍奉還から廃藩に至る過程とそれらが足柄県と神奈川県に再編されていたことも併記しておいた。

第二編は、「明治前期」とし、行政面では神奈川県会の開設から三多摩の東京府移管ころまでを取り扱った。この移管によって現在の本県の県域が確定したのである。この時期は国内政治の転換期で、本県下の特徴ともいえる三多摩その他の自由

民権運動や、涉外問題、横須賀軍港の形成、キリスト教の普及など、多面的な問題にもふれた。

第三編は、「明治後期」とし、日清・日露両戦争下の状況、政党の動向、地方改良運動、明治期の文化、教育の普及等を述べて、さらに大正初頭の第一次護憲運動と廢税運動を記述して、次巻の通史編第五卷政治・行政(2)に接続せしめた。